



2018年空デ生の夏生活



第9回京都造形芸術大学
通信教育課程
卒業生・修了生全国公募展
2018年8月17日(金)～25日(土)
アートフェア
「アート・マルシェ」
／瓜生山懇親会
2018年8月25日(土)

今年度も通信教育部恒例の様々な夏イベントが瓜生山キャンパスで開催されました。

人間館1階のギャラリー・オーブにおいては「第9回京都造形芸術大学通信教育課程 卒業生・修了生全国公募展」が8月17日から8月25日に渡って開催されました。今年度も昨年度同様にテーマは自由で、一次審査無しとなりましたが、空デからもこの公募展の常連(!?)である鈴木陽規さん(2009年度卒業生)を始めとして何人かの卒業生が出展されました。

また、公募展の最終日となった8月25日には、今年で三回目の開催となるアートフェア「アート・マルシェ」がギャラリー・オーブへのエントランス通路で開催され、空デの有志によるデザインチーム「ミカンバゴ at KUAD KUDE」が卒業生中心のチームと在校生中心のチームの二つのチームで参加しました。(写真1,2,4)、個人でも3年連続で花房澄夫さん(2014年度卒業生)が参加され(写真3)、11組中3組が空デからの出店となる活躍ぶりでした。

同じく公募展の最終日には、ギャラリー・オーブ前の吹き抜けスペースにおいて瓜生山懇親会が開催され、多くの卒業生・在校生が集まり、教員や友人との交流を深めました。(写真5)

※写真協力：森明子さん(2016年度生)、岡本正人先生





京都（瓜生山キャンパス）
「領域を横断するデザイン」
○日時：2018年8月11日（土）18:00～19:30
○講師：酒井洋輔先生

京都では、本学通学部・空間演出デザイン学科准教授の酒井洋輔先生をお招きして、「領域を横断するデザイン」というテーマで、今年の冬に開催された「青森トリエンナーレ」やジュエリーブランド「CHIMASKI」、「Whole Love Kyoto」プロジェクト、くるりのプロモーションビデオなど、ご自身が手掛けられた様々な活動・仕事をご紹介いただくことで、酒井先生が言われる「専門領域がない」という言葉が腑に落ちる講義となりました。

「青森トリエンナーレ」では、冬の雪国であえて開催することや「青森には何も無いよ」という地元の方々の言葉を逆にとったようなガイドブックやグッズの作成、ワークショップの内容を紹介いただきました。また「CHIMASKI」では、「ジュエリーとは楽しいもの」という考えをベースとして、ジュエリーがコミュニケーションを誘発するデザインになる作品など、様々な作品を紹介いただきました。

「Whole Love Kyoto」では、京都でしか買えない、京都を背景としたブランドとしたいとのことで、今後は古い下駄や草履をハナオシューズにすることも考えていることを紹介いただきました。この「Whole Love

Kyoto」では、職人さんとお話の機会ができ、職人さんの面白さや柔軟さに触れたことから、若い方たちに職人さんに会いに行きたくて欲しいとの想いが生まれたそうです。

このように様々な活動・仕事をご紹介いただきましたが、酒井先生は「デザインの力で味も変わる」、あるいは「デザインの力で値段が変わる」というところに興味を持っているとのことで「領域横断」ではあっても、デザインの持つ力をどう活かすかがその活動・仕事の根底に有るのでは無いかと感じました。

また、参加者からの幾つかの質問をやり取りするなかで印象的だったのは、学生の頃からアイデアは他の人に負けないという強い想いとのこと。今でもアイデアを考えるのは苦ではなく、一つのことを決めたら4年間続けているとのことでした。

酒井洋輔先生のプロフィール
大学卒業後、いろは出版（株）にて、雑貨ブランド「AIUEO」を立ち上げ、ブックデザイン・広告・CDジャケット等多岐に渡りデザインする。2012年、（株）CHIMASKI設立。アートディレクター。京都造形芸術大学 伝統文化イノベーション研究センター（KYOTO T5）所長。
<http://chimaskidesign.jp>
<http://chimaski.jp>

空間演出デザインコース 特別講義二〇一八



東京（外苑キャンパス）
「YOY（ヨイ）アイデアとプロセス」
○日時：2018年9月8日（土）18:10～19:40
○講師：YOY（山本侑樹先生）

東京では、「ミラノ・デザインウィーク」に7年連続・7回目の展覧会を果たしたデザインユニット YOY として活躍されるとともに武蔵野美術大学講師でもある山本侑樹先生をお招きして、「YOY（ヨイ）アイデアとプロセス」というテーマで、プロダクトデザインの他、ロゴ・サインデザインやホテルのリノベーションなどの様々な活動・仕事をご紹介いただいたあと、ご自身のアイデアの出し方やアイデアを製品化するための流れを実例を交えてご紹介いただきました。

デザインユニット YOY は、山本先生と小野直紀さんのユニットですが、普段はそれぞれ別のお仕事をされているそうです。ミラノサローネへの展覧会やプロダクトの製品化などの際にはユニットとして活動するそうですが、その活動のキーワードは「特異点」。お互いが持つ空間とモノという得意分野、つまり2つの異なる概念の境界を特異点と呼び、それがユニットとしてのアイデアの源泉になっているとのことでした。

後半では、アイデア出しの手法として、「アイデアをひたすら考える」とともに自分のアイデアが出やすい状況が何かを知るとか、「出てきたアイデアを絞り込む」ために言語で説明しなくても伝わるものにする



か、ポイントを絞って紹介頂きました。アイデアフェーズとデザインフェーズを分けて客観視するとともに、アイデア VS デザインではデザインが勝つてはダメということ。それが問題点の解決ではなく世の中に無いものを生み出すという「YOYらしさ」だそうです。

また、アイデアが実際に製品として世に出るまでの流れを実際の作品「CANVAS」を事例で紹介いただきました。アイデアを1000案考えてラフ案や試作を繰り返して5案程度に絞り込み、YOYらしい「世の中に無いもの」で「言語で説明しなくても伝わるもの」「製品化できる具体的な方法が明確なもの」として更に絞り込んでいくそうです。

作品のクオリティ＝作家のクオリティという山本先生の強い想いを聞かせていただきました。

YOYのプロフィール
2011年に小野直紀と山本侑樹によって設立された、東京を拠点に活動するデザインスタジオ。「空間とモノの間」をテーマに家具や照明、インテリアのデザインを行う。その作品は MoMA をはじめ世界中で販売され、国内外で多くの賞を受賞している。2015年より武蔵野美術大学非常勤講師。
<http://yoy-idea.jp/>

PCよろず相談会

暑さで夏バテ気味の方々への学習の一助になればということで、PCソフト（Photoshop や Illustrator など）の使い方の講習会「PCよろず相談会」が、8月25日に京都・東京で同日開催されました。京都は「アート・マルシェ」の開催日だったこともあり、観覧ツアーが開催されたそうです。東京では2017年度卒業生の長田謙次さんがチューターとして相談に来た今年度新入生からの質問に丁寧に受け答えをされていました。



大履修相談会

後期突入直前となった9月には毎月開催しているオープンゼミの拡大版として、大履修相談会が京都9月15日、東京9月22日の日程で開催されました。京都は田村先生の展覧会の初日となっていたことから、展覧会場である創々館1階で開催されました。また、京都では同日、在校生との学習会に参加中の寺尾文秀先生とネットで接続したり、東京では足を運んでくれた卒業生が在校生へアドバイスをしたりと、後期に向けてそれぞれが準備できた一日となりました。





TSUTSUMU TAMURA EXHIBITION

田村 蘊先生の作品展

田村先生は個展、公募展、彫刻展等で作品を発表する彫刻家でもありました。個展時に撮影されたもの、増設に随って求めた作品を多数制作しました。都市空間における「形」をテーマに手がけたモニュメント作品は全国各地に今も残ります。また、彫刻の領域を超えたデザイン・アートワークも多数手がけ、平面作品や「実生」をテーマとした点描作品も多く残っています。
田村先生が大好きだったJAZZが流れる空間をご覧ください。



TSUTSUMU TAMURA MEMORIAL EXHIBITION

「眠らない机」

2018年9月15日(土) — 23日(日)

8月4日にご逝去された田村蘊先生の偲ぶ展覧会「眠らない机」が9月15日から9月23日の会期で京都・瓜生山キャンパスの創々館 1階で開催されました。会期中の9月16日は卒業生が集うホームカミングデー 2018 が開催中ということもあり、多数の在校生・卒業生に会場いただきました。会場はエントランスを挟んだ二つの部屋で構成され、一方の部屋では田村先生が制作中に聴いていた「枯葉」などのJAZZナンバーが流れるなか、立体作品・平面作品が展示されていました。最近の点描作品を観る機会は有りましたが、これほどの纏まった数の金属を使った作品を観る機会はなかったので、その精緻で緊張感がある作品に圧倒されました。

また、もう一方の部屋では田村先生が写っている500枚以上の様々な年代・シチュエーションの写真が壁を埋め尽くしており、自分が知らない田村先生の姿を伺ってみたり、あるいは自分の思い出をひっくり返してみたりと写真を観ながら様々な思いが生まれてきました。そして、田村先生がコース研究室で実際に使われていた机が主を待つかのように、そのままの展示されていました。教育者として生涯現役として走り続けた田村先生の姿を感じさせる空間がそこにありました。

企画いただいた上田篤先生をはじめ、展示準備や展示期間中の対応をいただいた教員、そして空デ卒業生有志の皆様、ありがとうございました。



田村 蘊 (1946.7.2-2018.8.4)

学校法人瓜生山学園にて45年間教壇に立ち続け生涯現役を通じた教育者。彫刻家としても個展、公募展、彫刻展で作品を発表。「都市空間における造形」をテーマとしたモニュメント作品は全国各地に今も残る。短大ビジュアルデザインコース、大学空間演出デザイン学科の立ち上げに関わりながら、彫刻の領域を超えたデザイン・アートワークも多数手がけ、本学園の造形教育の父として多くの卒業生を輩出した。 ※展覧会フライヤーより引用

空デおもてなし学習会 「寺尾道場 in 軍艦島」



1: 上陸中止で船へ戻る寺尾先生
2: 軍艦島デジタルミュージアムでは島内の一室を再現
3: 「すすむVR」で上空から軍艦島を体感中の川合先生



4: 宿泊先の「i+Land nagasaki」のゲートを撮影する一行
5: 京都の創々館の上田先生（&岡本先生）とネットで接続中
6: 「ISLAND LUMINA」は「モーメント・ファクトリー」が制作を手がけるナイトアトラクション
7: 記念館の中庭で今井兼次デザインのディテールを探る一行
8: 光が差し込む聖フィリッポ教会内で神父様の説明を受ける一行
※写真協力：川合健太先生

9月最初の三連休となった15日から16日にかけて在校生・卒業生の学習会「寺尾道場 in 軍艦島」が長崎市で開催されました。これは空間演出デザインコースの専門演習テキスト科目・専門演習スクーリング科目を担当されている寺尾文秀先生を招いて、長崎市の軍艦島（端島）で学習会科目（寺尾道場）を開催したいとの在校生の沖英成さん（2013年度生）の想いから企画されたものです。

今回は在校生・卒業生、そして教員併せて26名が参加し、大規模な学習会となりました。

当日は、空デ最強の雨男コンビと言われる川合健太先生と寺尾先生が一緒になるため、天候が不安視されましたが、30度を越す気温となり、夏に戻ったかのような二日間でした。

長崎の軍艦島コンシェルジェのある常磐ターミナルが学習会スタートの集合場所となりましたが、出港ギリギリになって到着する方に間に合うのか、とドキドキの状況でした。ゆるキャラのガンショーくんに見送られて無事に出港した後は、船内で映像とガイドさんによる案内を聞きながら、これから向かう軍艦島への期待を膨らませました。長崎湾の内海を出て20分程で軍艦島に到着すると、まずは島を周回してその全容を伺った後、いよいよ上陸作業に入りました。

優先順序に沿って下船が始まりましたが、軍艦島の栈橋は浮き栈橋では無いため、途中から波の影響により危険が高まり、船長の判断により無念の上陸中止となりました。ただ、寺尾先生含めた3名は短い時間でしたが上陸ができました。

晴天でも波の状況では上陸できないという話をガイドさんから事前に受けていましたが、今回のように上陸途中で中止となるケースは稀だそうです。上陸が適わなかった分、軍艦島デジタルミュージアムを無料観覧させて頂きました。

その日の夜は、2015年度卒業生の小川晃平さんが内装の一部を手掛けた伊王島のホテル「i+Land nagasaki」にみんなで宿泊しました。夕食時には創々館の田村蘊先生の展示会場に居られる上田篤先生とネットで接続し、田村先生へ献杯を行いました。また、夜には島内で行われている体験型ナイトウォーク「ISLAND LUMINA」を見学しました。

二日目は、ホテルから長崎市内へ向かう途中でバスにトラブルが発生しましたが、皆でランチを取った後、市内の観光ポイントや川合先生お勧めの日本二十六聖人記念館（今井兼次設計）と聖フィリッポ西坂教会（今井兼次設計）を見学しました。

主目的であった軍艦島の全員上陸は適いせんでしたが、入学年度や住まいが異なる方々が集まって共通体験をすることで、交流を深めることができ、有意義な学習会になりました沖さん他、今回の学習会の企画・運営をいただいた皆様に感謝いたします。



清算が完了せず、沖さん間に合わず!?

空デエクスカーション2018（関西・関東）

今年も恒例の秋の空デエクスカーションを、関西、関東で開催します。

関西の開催では、滋賀県信楽町を訪れます。信楽は日本六古窯のひとつで、狸の焼き物で有名な信楽焼の故郷ですが、近年、古くからの伝統を継承しながらも新しい取り組みに挑戦し、多くの新しい空間が生まれています。なお、信楽は空デ研究室とは非常に縁の深い場所で、2010年に開催された国際陶芸トリエンナーレ「信楽まちなか芸術祭」では、通信空デ研究室として在学生とともに様々なイベントに参加しました。また、上田篤先生や寺尾文秀先生が手がけた空間もあります。最新の情報をコースサ

イトで確認のうえ、ご都合の合う方はぜひ参加してください。訪問先への予約の都合により先着40名の申込制となりますので、ご注意ください。

関東の開催では、空間演出デザインコースの専門演習テキスト課題・専門演習スクーリング科目を担当されている建築家・榊田倫之先生とともに、神奈川県小田原市と静岡県熱海市にある榊田先生が現代美術家杉本博司さんとともに設立した新素材研究所による二つの施設を見学します。なお、関東の開催については、訪問先への先行予約が必要となるため、8月31日（金）で参加申込締切済みとなりますので、こちらもご注意ください。

◆◆◆◆◆ 空デエクスカーション【関西】◆◆◆◆◆

- 内容：陶器も空間も楽しむ。空デ久々の信楽満喫ツアー
- 日程：11月3日（土祝）
- 集合場所・時間：信楽高原鉄道「信楽駅」午前9時38分に集合
【JR草津線】08:37 草津駅発 → 09:06 貴生川駅着
【信楽高原鉄道】09:14 貴生川駅発 → 09:38 信楽駅着
※注意：信楽駅到着後、すぐに甲賀市コミュニティバスに乗車します！
- 解散場所・時間：信楽高原鉄道「信楽駅」午後17時06分の電車で解散予定
- 予定訪問先：
 - ・滋賀県立陶芸の森
 - ・文五郎倉庫
 - ・misin-ya
 - ・Ogama
 - ・その他、伝説の「版築小屋」や窯元散策路の窯元やギャラリーを訪問予定
- 持参物：
 - 現金（陶芸の森企画展500円、昼食代2,000円程度（陶芸の森内UPcafe）、交通費）
 - ※両施設の入館料はつり銭のないようにご準備ください。
 - 学生証、健康保険証、デジタルカメラなど
- 参加申込締切日：10月22日（月）13時まで、先着40名
- ★★★
 - 陶芸の森内のUPcafeにて昼食の予約をしますので、参加申込後にキャンセルされる場合は、昼食代2,000円程度を後日お支払いいただく可能性があります。ご了承ください。



昨年度の関西での一コマ
(大阪市北区・天神橋筋商店街)

◆◆◆◆◆ 空デエクスカーション【関東】◆◆◆◆◆

- 内容：建築家・榊田倫之先生と巡る、江之浦測候所、MOA美術館見学ツアー
- 日時：11月23日（金祝）9:30~17:20 予定
- 集合場所：JR根府川駅前午前9時30分集合
- 行程：
 - 09:30 JR根府川駅前集合、無料送迎バスで測候所へピストン移動
 - 10:20 江之浦測候所見学ツアー開始
 - 12:00 江之浦測候所見学ツアー終了、無料送迎バスでJR根府川駅へピストン移動
 - 12:39 JR根府川駅発、電車でJR熱海駅へ移動
 - 12:55 JR熱海駅着、付近のお店で昼食
 - 14:30 JR熱海駅前からMOA美術館へ移動
 - 14:50 MOA美術館見学開始
 - 16:50 MOA美術館見学終了、JR熱海駅前へ移動
 - 17:20 ごろ 一旦解散、JR熱海駅付近のお店で懇親会を予定（自由参加）
- 持参物：
 - 現金（入館料：<江之浦測候所>3,000円、<MOA美術館>1,300円、交通費、食費）
 - ※両施設の入館料はつり銭のないようにご準備ください。
 - 学生証、健康保険証、デジタルカメラなど



昨年度の関東での一コマ
(東京都中央区・トーヨービル)

空楽々 編集室

Kurara Editor's Room

KUDEオープンゼミ



時にはこんな相談にも対応します!?

オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

■京都

- 日時：2018年10月27日（土）17:00～19:00
- 日時：2018年11月17日（土）17:00～19:00
- 日時：2018年12月22日（土）17:00～19:00
- 日時：2019年1月12日（土）（コースサイトでお知らせ）
- 日時：2019年2月2日（土）17:00～19:00
- 会場：瓜生山キャンパス人間館1Fラウンジ
- 担当教員：上田篤、岡本正人、他

■東京

- 日時：2018年10月6日（土）17:00～19:00
- 日時：2018年11月3日（土）17:00～19:00
- 日時：2018年12月8日（土）17:00～19:00
- 日時：2019年1月12日（土）（コースサイトでお知らせ）
- 日時：2019年2月9日（土）17:00～19:00
- 会場：東京外苑キャンパス1階エントランスホール
- 担当教員：川合健太、他

※事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。また、日程・会場が変更となる場合がありますので、コースサイトで事前に確認してください。

「オンラインオープンゼミ」の試験運用開始について

オープンゼミに来られない方のために、インターネット回線と簡単なソフトがあれば自宅や外出先からも相談できる「オンラインオープンゼミ」の試験運用の開始を予定しています。接続方法の詳細はコースサイトでお知らせしますので、確認してください。正式運用につきましては、試験運用状況を見ながら判断することです。遠地の方は勿論、近くの方でもこの機会に奮って参加をお願いします。

Ripple Trip「turn」展

Misa Sawairi さん（2010年度卒業生）の展覧会が外苑キャンパス1F廊下にて2018年8月18日（土）から9月9日（日）までの期間で開催されました。（展示ディレクション：川合健太先生）

Misaさんは現在ニューヨーク在住ですが、一時帰国中に本展覧会の展示作業を行ったそうです。



Misa Sawairi

静岡県生まれ。
2011年、京都造形芸術大学通信教育部空間演出デザインコース卒業。
2015年、アーティストとして単身渡米。
ニューヨーク・マンハッタンにある見知らぬショップの門を叩き、数々のディスプレイデザインやインスタレーションを手掛ける。
また、Ripple Tripをテーマに、街に落ちている素材を抽出し、空間の異化効果を生む作品制作を行なっている。
今秋、ミラノ、ロンドンのギャラリーに出展予定。
<https://www.sawairimisa.com/>

編集室から



- 永きに渡って空デのパパとして指導をいただいた田村蘊先生が8月4日に永眠されました。お亡くなりになる前の週末で卒業制作着手中の学生を熱く指導をされ、また前日には教員や卒業生とメールのやり取りなどをされていたとこのことで、その突然の訃報に驚いております。今回、あえてご本人の写真を掲載しなかったのは、皆さんの思い出の中からベストショットを選んで欲しいという想いとなります。ご冥福をお祈りいたします。
- 学習会で伺った伊王島にある昭和6年（1931年）に建立されたゴシック様式の天主堂教会は、「聖ミカエル天主堂」と言われているようですが、そのほかにも幾つもの名称を持つ珍しい教会だそうで、国登録有形文化財にもなっています。この日は天気も良く、長崎湾内を行き交う船にも幸運を祈っているかのようでした。
【表紙の色 臘脂色（えんじいろ）】



秋の夜長に思ったこと

「私たちが目で見てりんごがあると思う。だからそこにりんごがある。」

私たちは自分の認識の中でしか対象を知ることができず、その対象が私たちの認識に合わせない限りそれ本来の姿は誰にもわからない。

「我思う、故に我在り。」

確かに真実の姿はわからないかもしれない。ただ、今自分が想定しているりんごが赤い。と思い続けているという事実は紛れもない真実。だからこそ私は存在する。

こんにちは。「アートとデザインのちからで病院の空気をおいしく」をモットーに筑波大学附属病院を拠点に活動しているプロジェクト「アスパラガス」を少しご紹介しようと思う。私も二〇一七年から参画しているこのプロジェクトでは調査・企画、計画・設計し実行、振り返り、考察から3C (Communication、Collaboration、Coordination) を実践している。例えば、

無菌病棟の「清潔感ある白壁」を「無機質で冷たい白壁」と認識し、外出できない患者さんの精神的ストレスを緩和するために、壁に窓枠を描きその中に様々な風景を季節

ごと感じ、外界の疑似体験ができる場づくりや、「見たい風景」を写真などでカラージュしてポジティブな心理を促進するワークショップなどユニークな発想を病棟内で実現させている。この活動の魅力は、能動的に治療を施す病院（医師）と、それを享受する患者間の立ち位置の中で患者さんがごとさら「楽しい」「つまらない」「〇〇があったらもっと楽しい」など能動的な感情を表出し、人々の熱量が高まり刺激が生まれる所だ。確かに物事の本当の姿や在り方はいつまで経っても誰にもわからないかもしれない。ただ、このように認識の転換が機能、行動、状況の変容に影響することへ面白さと雑味の力（外部者が病院にアートを持ち込んで活動）に可能性を感じていることが私たちの原動力になっていることは事実だと思っ日々励んでいる。

ここまでお読みいただきありがとうございます。冒頭の一節は、長い時間をかけて少しずつ読んでいくカントとそれに対するデカルト哲学の一部です。秋の夜長のお供にご興味もたれましたら哲学に触れてみると面白いのでオススメです。

二〇一六年度卒業生 奥山英里子

もてなし時間